

新松戸みんなの椅子 プロジェクト 企画書

2022.4.5

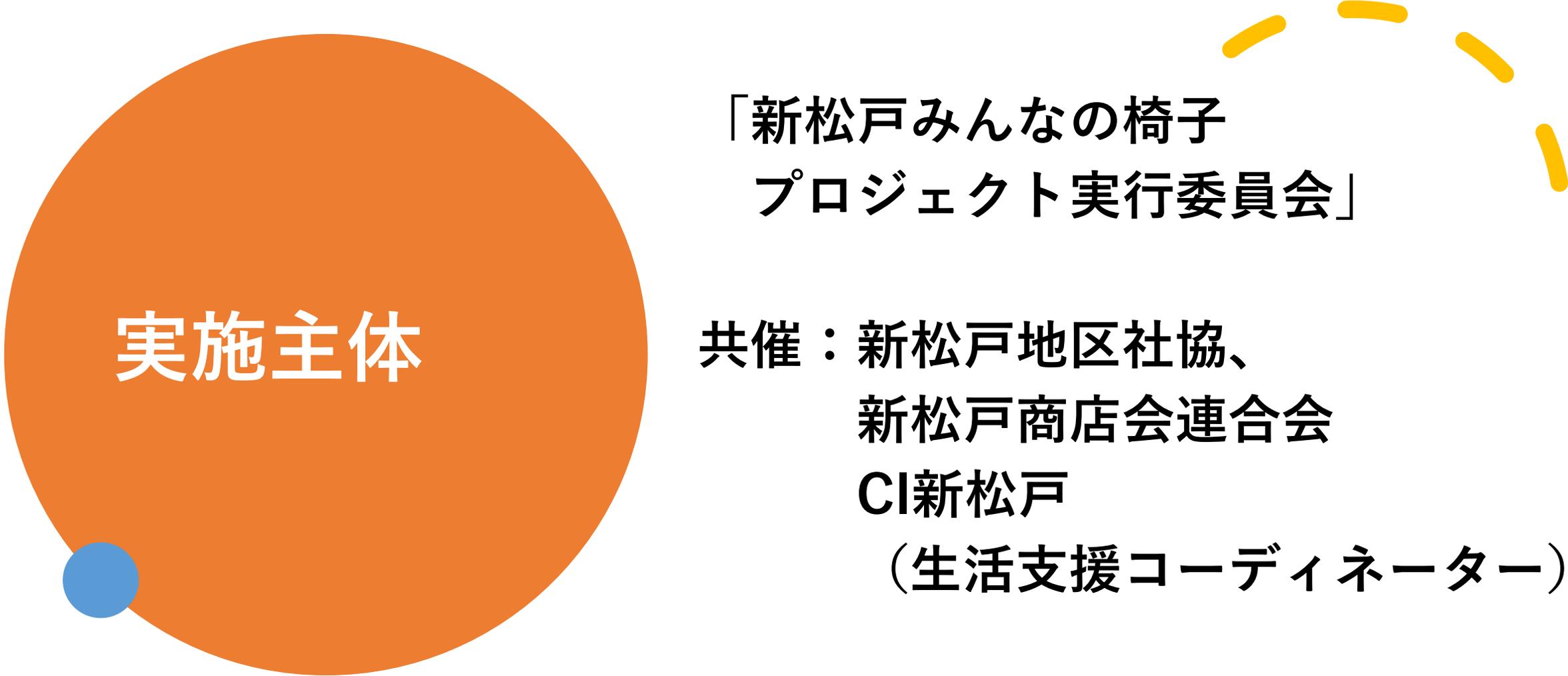
新松戸みんなの椅子
プロジェクト実行委員会

背景

- 新松戸地区においては、高齢化率が30%を超えている町会自治会があり、1970年代に開発されたマンション郡ではより高齢化が進んでいる状況もある。
- またここ数年のコロナ禍により、閉じこもりがちな高齢者も増えていることから急速なフレイル（要介護のリスク）が進んでしまっている。
- 一方で子育て世代や外国にルーツを持つ方も多い地域でもあるものの、地域で交流ができるようなスペース・機会は少ない。

目的

- そのような状況において、町中に誰もが気軽に座れるベンチ・椅子を設置することで、高齢者を始めとした全世代が「歩きやすい街、新松戸」を目指したい。
- 歩きやすい街づくりは、地域の人々の健康づくりにつながる。
- ベンチ・椅子がちょっとした憩いの場所となり、人々が挨拶や話をし、触れあうきっかけともなりうる。
- もし気になる人・困りごとを抱えていそうな人がいた場合、その方への声掛けもしやすくなる。



実施主体

「新松戸みんなの椅子
プロジェクト実行委員会」

共催：新松戸地区社協、
新松戸商店会連合会
CI新松戸
(生活支援コーディネーター)

※今後協力者として地域団体の方々にもお声掛けして行く予定

実施 イメージ①

- 協力をしていただける商店や町会自治会・個人を募り、それぞれの敷地内（屋外）にベンチ・椅子を設置していただく。
 - ベンチ・椅子については基本的にはご協力いただける団体等で用意していただき、日中設置して夜間はしまうなどの対応はそれぞれの状況で検討いただく。
- 

実施 イメージ②

- 設置するベンチ・椅子については共通の色やマークなどで統一することで、新松戸全体のプロジェクトとしてPR・周知していく。
- 今後設置箇所が増えていった先には、置いてある場所を周知するためのパンフレット・ポスターの作成や、設置場所を周るようなウォークラリーなどの企画を検討していく。

今後の 展開例

1. すでにあるベンチ、椅子を置いてもらう

2. 使わなくなったベンチ、椅子を塗装、修繕などして設置する

3. 資金調達を行いながら、オリジナルの椅子を制作する

他市事例

①豊島区ベンチプロジェクト

まち
地域で見かけた



特定非営利活動法人ぶどうの木 事務所前
(豊島区池袋本町 3丁目)

2、3年前から椅子を置いており、声掛け不要と書いてあれば気軽に座っていただけると思います、そっと見守っています。

商店街の中なので、主に買い物帰りの方や高齢者が利用されています。

お疲れの方はご利用
ください
声かけ不要です
ぶどうの木

ベンチ情報を募集中

「地域のおもしろいベンチ」や「助かるベンチ」などベンチ情報を募集します。下記の連絡先にお知らせください！

ベンチでつながる地域づくり～伊豆の国市ベンチプロジェクト～

他市事例 ②伊豆の国市ベンチプロジェクト



そこに座ると、誰かが声をかけてくれる・・・

会話が広がると、コミュニティが生まれる・・・

伊豆の国市では2016年6月から「ベンチ」から広がる地域コミュニティづくりを企画しています。

自分の足で、自分のチカラで、あのベンチまで・・・

歩みを進めることで、高齢者は生きがいを持ち、子どもたちの会話が增え、おとなたちの「気にかける」視点が生まれます。街には、にぎわいの時が流れます。あの頃の、笑い声にあふれていたあの時代の、笑顔の花をもう一度あなたのそばで広げてくださいませんか？

ポップ イメージ

設置日：●年●月●日

どなたでもご自由に
お座りください

～歩いて暮らせる街・新松戸～

新松戸みんなの椅子プロジェクト実行委員会



もっと気軽に設置できる
文面、形状を検討中

★新松戸で既に置いてある場所 イオン入口付近／あおぞら診療所新松戸

